

2020年1月11日(土)~13日(月)

甲斐駒ヶ岳 黒戸尾根



メンバー：CL 佐藤 小宮山 松本（記録）

前夜 21：30 千葉一道の駅はくしゅう（仮眠）

1日目 晴れ

●竹宇駒ヶ岳神社 7：30—刀利天狗 12：50—五合目 14：10—七丈小屋幕営 15：50

2日目 くもりのち雪

●幕営地 6：15—八合目御来迎場 7：15—山頂 8：45—幕営地 10：00

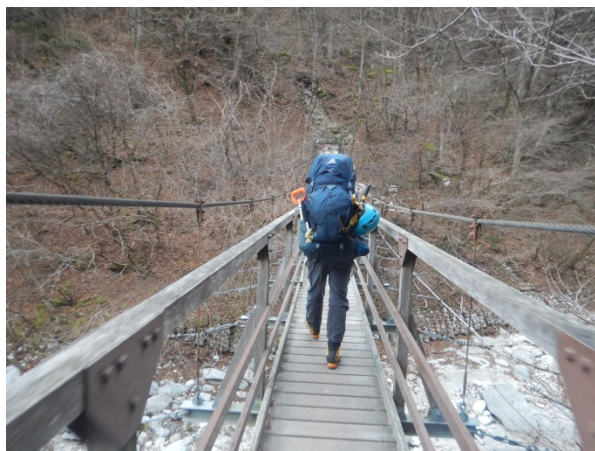
13日 晴れ

●幕営地 7：40—五合目 8：50—笹の平分岐 11：15—竹宇駒ヶ岳神社 12：45

2020年の初登りは、前からいきたかった甲斐駒ヶ岳。

登り3回、下りも合わせると4回目と経験があるという佐藤さんも冬は初めてという事で

計画してもらいました。一度登るともう二度と登りたくないと思うのにしばらくするとまた行きたくなるという黒戸尾根、中毒性があるのでしょうか！？自分の足で確かめる日がやってきました。



初日

尾白川溪谷の駐車場（トイレあり）は登山者をチェックする係の人が数名で質問をして回っていた。

登山届けの提出（義務）や装備、ルート上の危険箇所を認識しているか細かくチェックされる。

我がパーティ はリーダーの綿密な計画により何も問題が無く、鼻息荒く詰問してきた年配の男性は拍子抜けした様子で立ち去った。

ザックを計量すると、佐藤さん 24 キロ、小宮山さんと私は 17 キロ。不安を抱えながら歩き出す。出だしは落ち葉のラッセル、1400mあたりから凍った雪道となりアイゼンをつける。4時間以上たってようやく展望が開け有名な刃渡りに。八ヶ岳、鳳凰三山、富士山が綺麗に見えた。



刀利天狗を過ぎ黒戸山を巻く長く平坦な道の後、100mほどを激下り。ようやく五合目に着く。崩壊箇所はとても綺麗に修復されている。アイゼンでのハシゴ登りは緊張するが、焦らず落ち着いて登れば問題ない。鎖やハシゴの連続を無我夢中で登ると七丈小屋に到着する。水は2リットルまで無料で小屋で提供してくれるのでありがたい。各自がバラバラにもらいに行き小屋番に悪い事をしてしまった。疲れていたがもうひと踏ん張りで整地し2~3人用テントを張って潜り込む。小宮山さん作の美味しいご飯をいただき明日の為に早めに就寝。



2日目

昼前から天気が崩れる予報なので日の出前にヘッドランプ、ハーネスをつけ出発する。積雪も少なくトレースもあった。降雪が進むと冬道になると事前に調べていたが鎖も埋まっておらず夏道を使う。朝のうちは晴れていて8合目手前で綺麗な日の出を拝む事が出来た。



八〜九合目 かぶり気味の大岩を鎖を掴んで乗っ越すところとルンゼが危険箇所、落ちたら命は無さそうだ。



もうすぐ山頂という頃、急にガスって風が強くなってきた。すれ違った人にあと10分もすると荒れるよと言われて、疲れていた私は内心ここで引き返してもいいなと思ったけれど割とすぐ頂上だった。とても長居できる天候ではないのもう一組のパーティーと撮りっこして下山開始。



危険な箇所は時間もありません後続者もいなかったのでロープを出して懸垂下降した。

テン場に到着して時計を見ると10時。その後はまったり小屋で七丈ブレンドを飲んだり

(花谷ガイドのツアーは上がってくるのかしら)と密かに胸躍らせ待ち伏せてみてもたっぷり時間がある。

そして2日目も軽量化しても栄養価があり美味しい山メシを探求するKさん作のご飯をいただき贅沢な時間を過ごした。

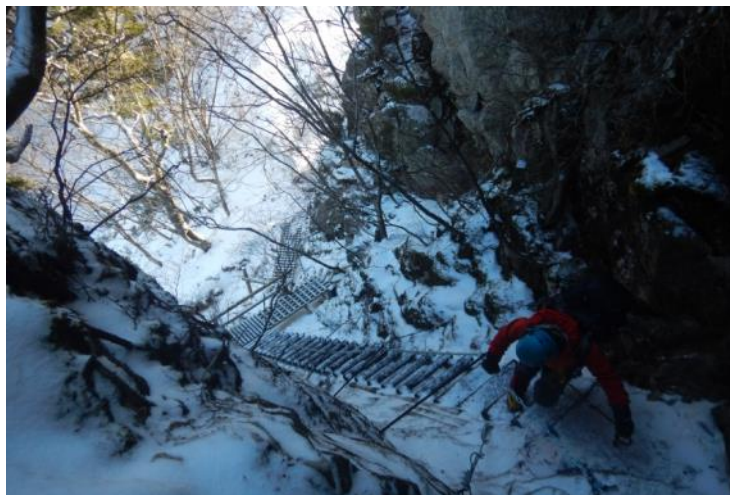
ちなみにガスは3日間の調理+とろ火で暖を取るのに使って大きい缶一つでまかなえた。



3日目

雪は明け方まで降りづついていたが大して積もることなく、撤収する頃には快晴となった。花谷さんにも会えたとし、雪上テント生活があまりに快適過ぎてここを離れたくない気分だったが、そんなわけにも行かないので黒戸尾根を下る事にする。

五合目までは気を抜かず、その後もアイスバーンや落ち葉の下のトラップに転ばないように最後まで注意を必要とする長い道のりであった。



登山口の尾白川は観光客がちらほらいて春先の風景のよう。神社に無事下山できたお礼をして尾白の湯という広くて気持ち良い温泉で体を温め遅めのランチをして帰路についた。



まとめ

荷物を背負っての長い道のりは、私にとって無心と集中を繰り返す必要とする本当に修行のような黒戸尾根でしたが、今までの自分を振り返ったり、これからの道を見つめる事ができ年始に相応しい山行となりました。

例年ではもっと雪が深く登れなかったかもしれないので、このタイミングで計画遂行してくれた佐藤さん、いつも励ましてくれる小宮山さんに感謝です。 無雪期にもまた歩いてみたいと思いました。

みなさま、今年もよろしくお願いたします。